

松川浦稚魚調査結果と近年の特徴

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業－資源管理－その他魚種（海）

2 担当者名

山田 学・佐藤利幸・白土遼輝・守岡良晃

3 要旨

松川浦を稚魚期の生息場とする水産有用魚種について、漁獲加入水準を予測するため、2012年～2021年に松川浦の6調査定点でビームトロール調査を行った。その結果、シロメバル、イシガレイ、マコガレイ、スズキ、アイナメの採集密度は平年並みか低かった。また、植食性のアイゴが多く採集された。

- (1) 2021年生まれのシロメバル、イシガレイ、マコガレイ、スズキ、アイナメ採集密度は平年並みか低く、これら魚種の今後（1～3年後）の漁獲加入につながる高い採集密度はみられなかった。（表1）。
- (2) 近年、暖水性の魚種の採集が増加しており、アイゴが2017年に初確認され、2021年には8、9月に19尾採集された（表2）。アイゴは植食性の魚種で、他県では磯焼けの原因となっていることから、今後注視が必要と考えられた。

表1 主要魚種の採集密度の推移
単位：尾/曳網

年	魚種	イシガレイ	マコガレイ	アイナメ	シロメバル	スズキ
2012		0.6	0.2	0.3	0.1	0.0
2013		0.2	1.0	0.3	1.5	0.2
2014		0.3	0.7	0.4	0.6	0.2
2015		0.2	0.6	0.6	0.0	0.0
2016		0.5	1.1	0.2	3.5	0.4
2017		0.2	0.4	0.2	7.9	12.2
2018		1.7	0.6	0.0	1.6	0.0
2019		0.2	0.1	0.0	0.3	0.4
2020		0.6	0.2	0.2	1.2	26.1
2021		0.5	0.4	0.1	0.0	0.2
平年値		0.5	0.6	0.2	1.4	1.2

※平年値は2007-2021年の最高最低値を除いた平均

表2 アイゴの採集状況

採集年	採集尾数 (尾)	最大全長 mm	最小全長 mm
2017年	2	102	47
2021年	19	133	43

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3年度～令和7年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

5 主な参考文献・資料

- (1) 山田学他, 松川浦ビームトロール調査による2017年の稚魚採集状況と漁獲加入との関連の検討, 東北底魚研究, 38, p.88-92, 2018.